

第 2 部会 福祉分野

1 審議会での主な意見

○高齢者福祉

- ・ 人生 100 年時代、サード・エイジ（達成の時代）※の充実が鍵
- ・ サクセスフル・エイジング
- ・ 活動、活躍できる場の創出
- ・ 多世代との共存
- ・ デジタル活用
- ・ 認知症になっても困らない社会、認知機能が低下しても安心して暮らせるまち
- ・ 住みやすい住環境づくり
- ・ 適切なサービスの情報発信
- ・ 高齢者の活動を支援する仕組みづくり
- ・ 見守るためのつながり
- ・ 主観年齢

○障害者福祉

- ・ 保護者への支援が大事、一時でもリフレッシュできる環境づくり
- ・ 発達障害者への適切なケア
- ・ 障害者への理解
- ・ 障害者との共存が当たり前の社会

○地域福祉

- ・ 福祉職の人が誇りをもてる環境づくり
- ・ 活動の場と出番の創出
- ・ 気軽に集える場所
- ・ 福祉を各分野に分けるのではなく、ごちゃ混ぜに考える
- ・ おせっかいを活かす
- ・ 一人ぼっちをなくす

※ライフコース 4 段階区分説より

前回の審議で出された意見・キーワードを列記。

福祉分野についてのまとめ

第2部会 福祉分野

2 10年後の未来予想図

福祉「やさしいおせっかいがウェルビーイングを高めるまち」

人生100年時代を迎え、一人ひとりが重ねてきた経験、抱えている課題も様々になっています。つながりの中で、誰もが自分らしくいられる居場所を地域の中で見つけ、正しい理解のもとに、他人のために行動することができる地域共生社会をめざします。

■支え合い、助け合う

すべての人が心地よく過ごせるように、気軽に悩みを打ち明けることができ、また、優しく手を差し伸べることができる、困っている人を見つけた時に、ひとりぼっちにしない地域をつくります。

■違いを超える

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人が、相互に理解を深めるため、コミュニケーションをとり、支え合う、「心のバリアフリー」が体現されたまちをつくります。

■自分らしさを大切にする

自分自身のことを理解し、大切にし、受け入れ、地域の一員として活躍しながら、できないことは周囲を頼り、住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられるまちをつくります。

※ウェルビーイング 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念（厚生労働省「雇用政策研究会報告書」より）